

## 第1学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)  
授業者 T 1 〇 〇 〇 〇  
T 2 〇 〇 〇 〇

### 1 主題名

大切な友達だから・・・ 「B-(8) 友情, 信頼」

### 2 ねらいと教材

#### (1) ねらい

安易に友達の意見に同調するのではなく、正しいと思うことを伝えようとする道徳的判断力を育てる。

#### (2) 教材名

「短文投稿サイトに友達の悪口を書くと」(東京書籍 新しい道徳1)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

お互いの人間的な成長と幸せを願って励まし合い、時には意見がぶつかることがあっても、忠告し合える人間関係は、互いの信頼を基盤としているからこそ、築くことができると考える。そのような関係を築くことで、いざという時に頼ることができ、切磋琢磨しながらお互いを高め合って生きていくことができる。中学生の段階では、心の底から打ち明けて話せる友達を得たいと願う気持ちが高まる一方で、相手に無批判に同調し、自分が傷つくことを恐れる余り、最初から一定の距離をとった関係しか持たないなど複雑な思いにとられる場合もある。このような時期だからこそ相手の内面的なよさ、ものの見方や考え方を理解し、悩みや葛藤を克服することで、より一層深い友情を構築していくことが必要である。

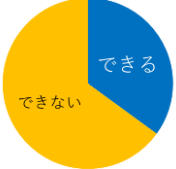
#### (2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、中学校に入学して以来、宿泊研修や部活動など様々な体験を通して、友達と励まし合いながら辛いことも乗り越え、信頼関係を築いてきた。一方で、ささいなことで言い争いになったり、正しいことではないと自覚しながら、今までの関係を崩したくないあまり仲の良い友達に同調して流されたりするなど、信頼関係についての理解が不十分である。例えば、仲の良い友達が、授業中に私語をしても、なかなか注意ができなかったり、級友の悪口を一緒に言ってしまったりする姿が見られる。そこで、安易に友達の意見に同調するのではなく、正しいと思うことを伝えようとする道徳的判断力を育てることが重要であると考えている。

#### (3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、同級生の悪口を「ネットに投稿してやる」と言い出した友達を心配する、主人公の心の葛藤や行動を取り上げている。主人公は、友達の言葉に対して、はじめは逆らえずに同調するのだが、夜になってにわか心配になり、次の日に目が覚めると、あわてて友達に電話をするという内容である。友達の発言に対して、はじめは同調した主人公が、次の日に電話で注意を促したのはなぜかを考えさせることを通して、ねらいに迫りたい。教材の内容について、主人公の心情の変化を、それぞれの場面で、自分のこれまでの経験を基に振り返らせるため、分割読みを取り入れる。また、教材の内容は、ネットへの書き込みという、情報モラルに関する指導と関連している。インターネット上の法やきまりを守れずに引き起こされる弊害について触れながら、本時の指導に当たっていききたい。なお、今回の授業では、授業者と生徒の対話を大切にしたいため、チームティーチングで授業を行い、役割を分担する。T 1 は主に生徒と対話をし、T 2 は、生徒の発言の板書や配慮の必要な生徒の支援に当たる。

4 学習指導過程

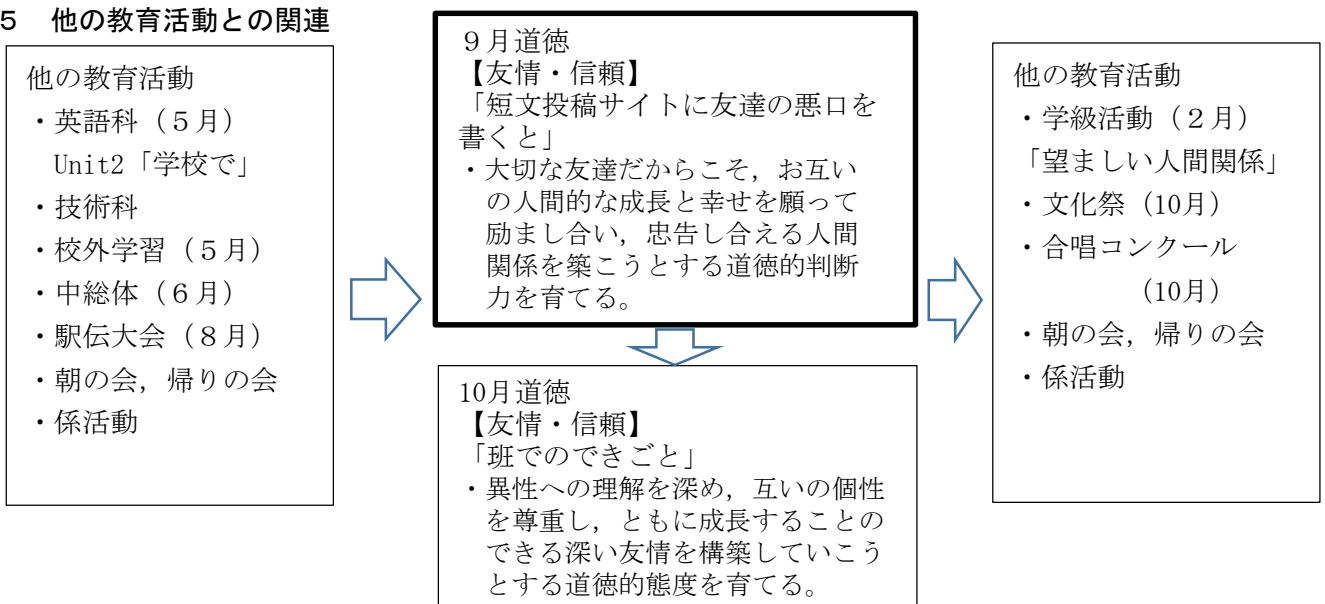
	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問) ・予想される反応	・指導上の留意点 (T1) ☆T2の動き
導入 5分	<p>1 主題に関わる問題意識を持つ。</p> <p>アンケート結果</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>○ 「友達がいる良かったな」と思う場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ趣味のことを話せる。</li> <li>・ 悩みを聞いてくれた。</li> <li>・ 体育でペアになって活動するとき。</li> </ul> </div> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何か。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に回答した内容と展開後段での考えを比較させるために、アンケート結果は最後まで掲示しておく。</li> <li>・ 生徒の回答の内容について、友達（自分）が何のためにそのような行動をしてきているのか（しているのか）を考えることを通して、本時の課題につなげる。</li> </ul> <p>☆1時間の授業を通して、生徒の発言を板書する。</p>
展開 前段 12分	<p>3 教材の前半の内容を把握し、主人公の心情の変化を捉える。</p> <p>○ ネット上に人の悪口を書くとどのようなことが起きるか知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 炎上します。</li> <li>・ 訴えられて処罰されるかも知れません。</li> </ul> <p>○ コウタがなかなか眠れなかったのはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イチロウが心配になったからです。</li> <li>・ 自分の行動を後悔しているからです。</li> <li>・ 注意すべきかどうか迷っているからです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲の良い友達にはなかなか注意できないという場面を、自分のこれまでの経験を基に振り返らせるために、教材の前半のみ範読する。</li> <li>・ 情報モラルと関連して考えさせるために、法についても触れておく。</li> </ul> <p>☆教材の内容を正しく捉えさせるために、場面絵を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言うべきかどうか葛藤している気持ちを理解することを通して、どのように行動することがお互いのためになるのかを考えさせることにつなげていく。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どういう心配があるのですか。</li> <li>・ どうして後悔しているのですか。</li> </ul> </div>
展開 後段 26分	<p>4 友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことについて考える。</p> <p>○ もしも、あなたがコウタの立場だったら、イチロウに忠告することはできますか。理由とともに自分の意見を書き、その後、グループで意見を発表し合ってみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">できる</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名前がばれて広まったら大変だからです。</li> <li>・ 友達が訴えられるかもしれないからです。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">できない</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲が悪くなるかもしれないからです。</li> <li>・ 逆にいじめられるかもしれないからです。</li> <li>・ 言っても聞かないと思うからです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物の気持ちに自我関与させ、道徳的価値に対する自覚を可視化させるために、心情円を活用させる。</li> </ul> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">  </div> <p>(青：できる 赤：できない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意見をワークシートに書かせることを通して、自らの考えを整理させ、発表につなげさせる。</li> <li>・ 多面的・多角的に考えさせるために、グループで友達の多様な考えに触れさせる。</li> </ul> <p>☆支援が必要な生徒の机間指導を行う。</p>

<p><b>迷う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言いたいけれど、本当にできるか分かりません。</li> <li>・どれくらい相手を信頼しているかで行動も違うと思うからです。</li> </ul> <p>◎ コウタをあわてて電話に向かわせたものは何だと思えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達を良い方向に導こうとする思いやりだと思います。</li> <li>・これからもずっと信頼し合える友達でいたいという思いです。</li> <li>・訴えられたら、大切な友達を失ってしまうという不安です。</li> </ul>	<p>* 「できる」と答える生徒が圧倒的に多かった場合の問い返し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・逆に文句を言われたらどうしますか。</li> <li>・本当にできますか。</li> </ul> <p>* 「できない」と答える生徒が圧倒的に多かった場合の問い返し。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それは友達と言えないのではないですか。</li> <li>・友達が後で大変なことに巻き込まれてもいいのですか。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後半を範読することで、コウタがとった行動に対しての自分の考えを持たせ、道徳的価値についての理解を深めさせたい。</li> <li>・意図的指名をするために、座席表に生徒の考えを書き込みながら机間指導する。</li> <li>・全員の前で発表させることで、大切な友達だからこそできる行動について考えを広げさせたい。</li> </ul>
<p><b>5 自己の生き方についての考えを深める。</b></p> <p>○ 友達と、お互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで、いつも一緒にいてくれたり遊んだりしてくれる人が友達だと思っていたけれど、間違ったことを注意し合ったりすることも大切だと思いました。</li> <li>・自分は友達に注意できるか分からないけど、お互いの幸せのためには言いづらいことも言ってあげることが大切だと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の生き方について考えを深めさせるために、書く活動を取り入れる。</li> <li>・導入で提示したアンケートの回答を再度取り上げることを通して、今日の授業での新たな気づきを共有する。</li> </ul>

**【評価】**

友達との人間関係について、主人公に自我関与する学習を通して、自分との関わりで考えようとしていたか。

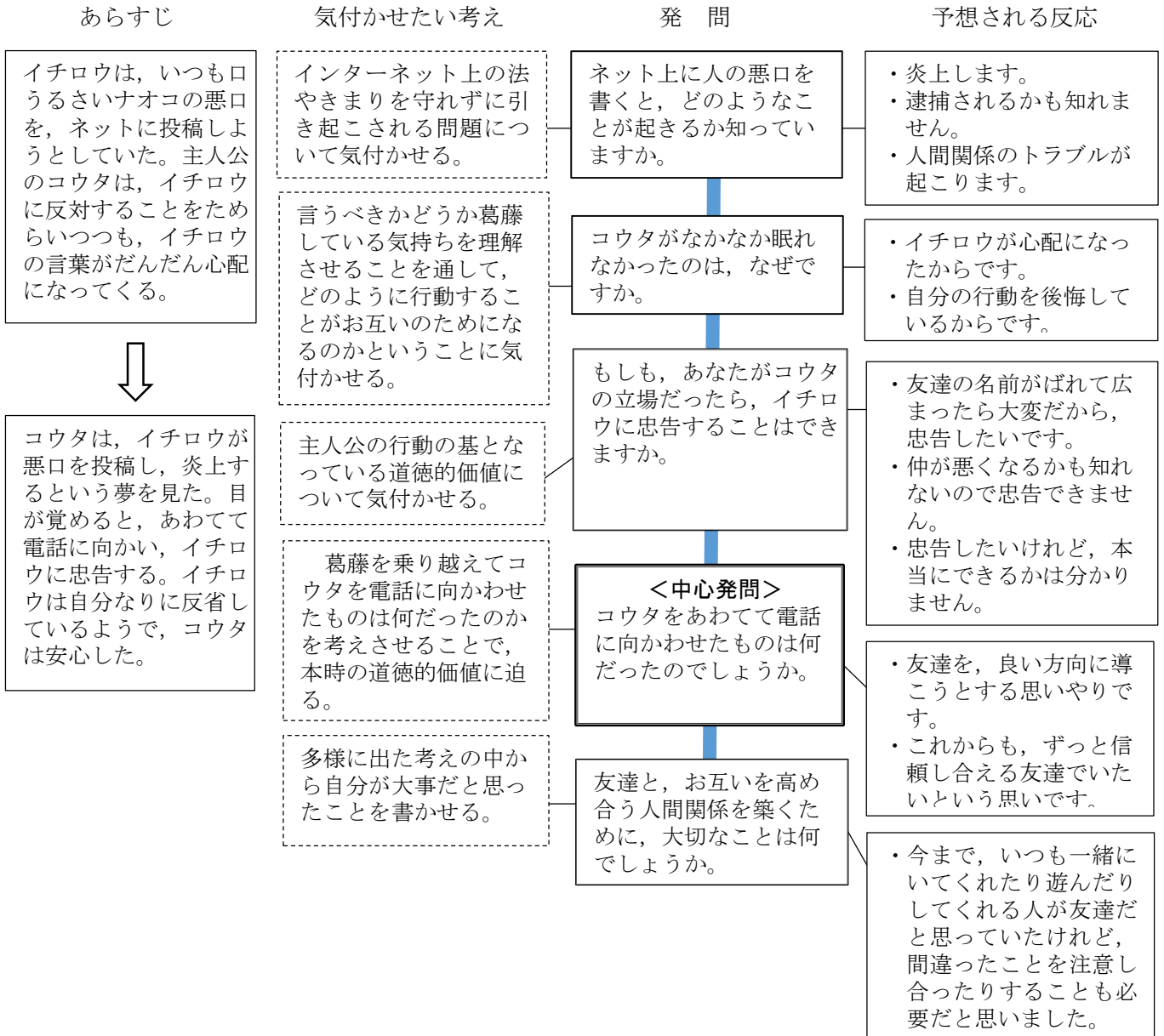
**5 他の教育活動との関連**



## 6 補充・深化・統合の視点【深化】

本時は、これまでの諸活動での体験を生かしたり、振り返ったりしながら、「友情」についての意義や自己との関わりについて一層考えを深める授業である。

## 7 教材分析・発問構成



## 8 準備物

教師：教科書、ワークシート、場面絵、心情円、板書用発問シート

心情円：心情の変化を表す教具。本時では、「できる」「できない」を2色の割合で表現させる。

生徒：教科書、心情円

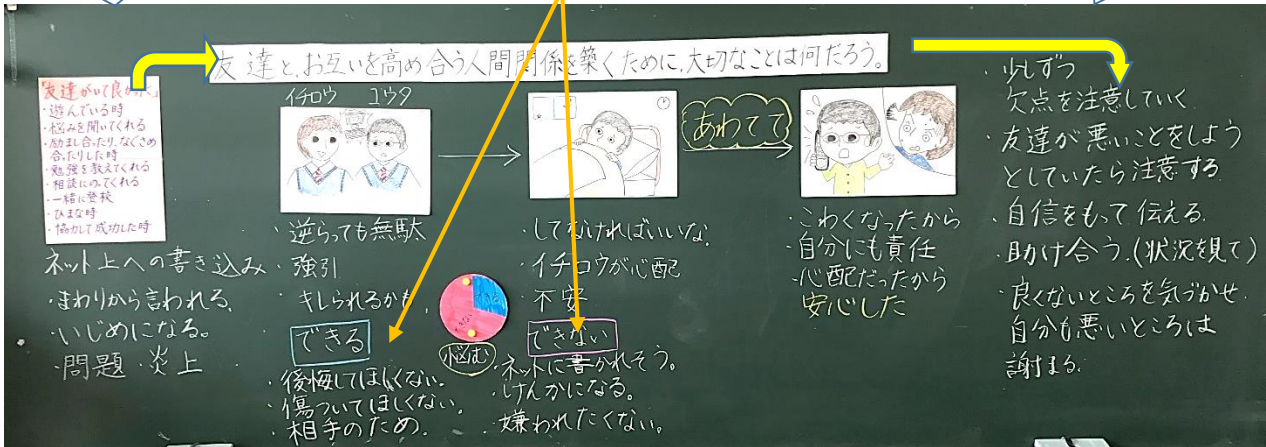
9 実践の記録 (○成果, ●課題)

【板書】

事前アンケートの回答を、終末での振り返りと比較できるよう、黒板に残しておく。

自分との関わりで考える。

終末に、自己の生き方について考える。授業を通して、多面的・多角的に考えることができた。



(1) 導入

事前アンケートの結果を示す

本時の道徳的価値に関わる問題意識を持たせるために、事前アンケートの結果を提示した。

- アンケートを実施することで、本時の道徳的価値に関わる学級の実態を知ることができた。
- 結果を黒板に残すことで、終末の振り返りと比較して学んだことを記述していた生徒がいた。
- 発問の意図が十分ではなかったため、アンケート結果から課題に結び付けるまでの過程で、うまく問題意識を持たせることができなかった。

導入時の生徒との対話

T 「(アンケート結果から) どうして友達はこのようなことをしてくれるのかな？」  
 S 「相手に喜んでもらいたいから。」 「相手の役に立ちたいから。」 「信頼関係があるから。」  
 T 「なるほどね。自分もそう思ってるし、相手もそう思ってるよね。それでは、一步成長して『友達とお互いを高め合う人間関係を築くために、大切なことは何だろう』ということについて一緒に考えていきましょう。」

(2) 展開

チームティーチング(TT)による指導を行った

T1は、主に生徒と対話をし、T2は、生徒の発言の板書や配慮の必要な生徒の支援に当たった。

- 生徒との対話と、板書を役割分担することにより、指導計画どおりの時間配分で進められた。
- 生徒の記述を座席表に記入することで、意図的指名することが容易になり、多面的・多角的な考えを発表させることができた。

心情円を用いてグループで意見交換をさせた

登場人物の気持ちに自我関与させ、道徳的価値に対する自覚を可視化させるために、心情円を活用させた。また、多面的・多角的に考えさせるために、グループで友達の多様な考えに触れさせた。

- 言葉ではうまく表現できない生徒にとっても心情円の活用は有効であった。
- 「できる」と答えた生徒でも、少しだけ「できない」という気持ちがあることを一目で認識する

ことができた。

- 1回目の授業では「できる」に傾いてしまい、多様な意見を引き出せずに終わってしまった。その反省を踏まえ、2回目の授業では、「できる」と答えた生徒に「でも逆に悪口を言われるかも知れないよ。」など、揺さぶりをかけたことにより、グループで議論が交わされたところがあった。
- 複数の道徳的価値の関わりについて、生徒の意見が少なかった。
- グループを作る目的は、友達の多様な考えに触れさせるための発表の場であったが、それだけでは多面的・多角的に考えさせることができなかった。2回目の授業では、発表の後、「友達の意見に対して聞いてみたいことがあったら聞いてみよう。」と指示した。

#### グループ活動で友達と議論していた班

T 「もしも、あなたがコウタの立場だったら、友達に忠告することはできますか。」

S 1 「できる。後悔はしたくないから。ゆっくり怒らないように忠告すればいいのでは。」

S 2 「ぼくはできないな。強引な相手だから、逆に何か言われたり、悪口を書き込まれたりするかも知れないから。」

S 1 「それじゃ、S 2は、友達がどうなってもいいの？」

S 2 「どうなってもいいわけじゃないけど、・・・」

#### 場面絵を提示した

教材の内容を把握しやすくするために、場面絵を提示した。

- 生徒を授業に引き付けることができた。教材の登場人物の気持ちに自然と自我関与させることができた。

#### (3) 終末

課題に対する自分の考えを、本時の授業を通してまとめさせた。

#### 生徒の感想

- ・ 友達の言葉に対して、よく耳を傾けるということが、お互いを高め合うには大切だと思った。
- ・ 思いやり、注意すること、助ける心が大切だと思う。
- ・ みんなの考えていることや意見が聞けて良かった。自分と違う意見の理由を聞くことができ、「その考えもあるんだ」と思った。
- ・ 注意するところは注意したり、楽しかったら笑い合ったりと、メリハリをつけるのも大事ななあと思った。
- ・ 仲良く遊んだりしゃべったりするのが友達だけど、その中でも、もし悪いことをしようとしていたら、恐れなくて注意したい。
- ・ 後からけんかになると思っても、注意するのは悪いことではないと自信を持つ。
- ・ 自分が思ったことだけをはっきり言うのではなく、相手が思ったこともしっかり聞いてあげることが大切だということが分かった。
- ・ 自分は嫌われるのが怖くて、注意したりできないかもしれないけど、これからは今日学んだことを生かして、お互いを注意し合えるような関係づくりをしていきたい。
- ・ 友達と協力して何かを成り遂げていたり、悪いことをしていたら注意してあげたりすることで、お互いのことを理解し合えると思った。